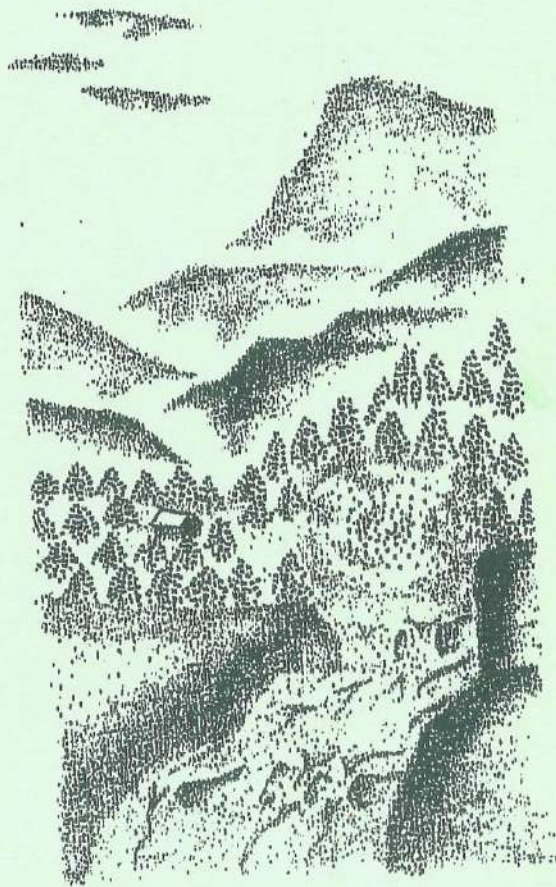


湧水

湧水 第十二号 令和三年七月 発行



千代田岳精会 自作自詠俳句研修会

湧水第十二号目次

作者俳号	名	頁
伊藤しろう	(彰一)	1
鶉飼てるお	(輝夫)	2
神田つねこ	(恒子)	3
近藤まき	(まき子)	4
座間宗萌	(文子)	5
塩月凌司	(崇史)	6
鈴木陵人	(重成)	7

作者俳号	名	頁
徳本じゅんじ	(順治)	8
橋本千舟	(隆一)	9
八田玄猷	(豊)	10
細川をさむ	(修)	11
前田道人	(道紀)	12
菊地龍駿(利廣)	様を悼む	14・13

「リモート」

伊藤しょう(彰一)

星冴ゆる手をポケットに空あおぐ
落味噌を食ぶ日暮の延びにけり
梅の花つぼみふくらみ鶉来る
戸田橋の堤に摘むやつくしんぼ
リモートで詩吟の稽古夏の夜
昨日の暑さはどこへ通り雨
社まで遠き砂利道七五三
冬ざれや木々のすき間に富士の山

1

「花菖蒲」

鶉飼てるお(輝夫)

トランク引く音だけ響き冴へる夜
和菓子屋のウィンドーはや鶉餅
背伸びしては土筆を摘むじじとばば
前をゆく日傘の人に母偲ぶ
溜池のボートあそびや花菖蒲
シャッター降り閉店の紙秋惜しむ
袴着の鼻緒の白き七五三
ひねもすや木の葉の散りて空広く

2

「夏の月」

神田つねこ（恒子）

バス停に子を待ち仰ぎ月冴ゆる
卒寿なる新人の声吟始め
落味噌の香を添えて朝の膳
葉の上に大輪一花泰山木
疫病禍の商店街や夏の月
たぐり寄す蔓に通草のひとつ裂け
木々の枝整へ庭の秋惜しむ
見直して挨拶交はす冬帽子

「菩提樹」

近藤まき（まき子）

町内を四角くめぐる梅見かな
脳トレの頁をめくる木の芽風
巢の端に尻並べ糞燕の子
雷も暑さに鳴りをひそめけり
筆塚に燃え色添へし柿紅葉
バリトンの「菩提樹」に酔ひ秋惜しむ
七五三裾から覗くスニーカー
ルミナリエ鎮魂の町冬ざるる

「航跡」

座間宗萌（文子）

園庭の水琴窟の音冴ゆる
お松明火花飛び散る闇夜かな
猿島へ白き航跡夏の海
川べりに続く黒塀風薫る
解体の古き学舎秋惜しむ
桃割れの細きうなじや七五三
日短や庭の声止む幼稚園
沼底の魚影動かず冬ざるる

「歳時記」

塩月凌司（崇史）

朝日差す初春の土手散策す
湧水に木漏れ日まだら蝶の舞ふ
大江戸の名残の浴衣いなせかな
川暮れて納涼舟の灯の明り
金木犀散るや日毎の地図ならむ
歳時記をめくり推敲文化の日
冬ざれや瀬音ま近の露天ぶろ
寒鯉のけむりの如く姿消し

「古い二人」

鈴木陵人（重成）

八十路とて子等の祝や福寿草
春めくやゆるりと行こう古い二人
春の星またたく彼方友逝けり
花の雲群れ人小さく包みけり
四方山話の尽きざる日除けかな
今年また墓前に立つや蟬時雨
釣人の黙と佇み水澄めり
行く年や淡き日射しに明日思ふ

7

「書初」

徳本じゅんじ（順治）

書初や万葉集に令和なる
冴ゆる夜や帰宅待つ妻独り居り
妻の待つ家路に夏の月明り
薄切りのレモン浮かべてアイスティー
秋惜しむ常連客のティータイム
柚子料理母の味なる夕餉かな
子は先に急ぐ参道七五三
はさみ入れ枝切り落し冬に入る

8

「白日傘」

橋本千舟（隆一）

替刃して顔剃りたりお元日
大根引き畑行く塙の猫車
摘草やふるさと思ひ妣しのぶ
いかづちに詩囊を打たれ目覚めけり
白日傘まはし踏切開くを待つ
ワンカップ供ふ磯宮秋惜しむ
ズック靴に袴の形の七五三
霜の夜や路地に人声救急車

「年賀状」

八田玄猷（豊）

会えること祈る想ひの年賀状
須磨の浜入学近き子が遊ぶ
夏まつり自肅の校庭人氣なく
蚕飼ふ初体験の二年生
青空に兎の声弾む運動会
妻に添ひゆるりと歩き木守柿
木枯しに吹かれ来る子の頬赤し
初時雨親友逝く文や遠き日々

「寒緋桜」

細川をさむ（修）

襟を立て急ぐ家路や月冴ゆる
おにぎりのほんのり苦し露の味噌
妻と見し寒緋桜は今はなし
風鈴や風なき道に上衣脱ぎ
玉虫を捕りし天下の吉野山
秋惜しむ夕日に染まる相模湾
手術終へ無事の電話や秋日和
冬ざれや抜けし白髪を払ひをり

「自遊」

前田道人（道紀）

神在月託した言葉「皆達者」
おでんやへ美術談義の親子行
居間に来てさて何をしよう春や春
ラガーマン共に気迫で担架かな
老いぼれに炎暑の恵御退院
「竜勢」に押しまくられて村祭
小三治の語る枝豆塩加減
日短やひねもす検査ほつ湯浴

菊地龍駿（利廣）様を悼む

自作自詠（俳句） 研修会

リーダー 橋本千舟

一、故菊地龍駿様 作句（「湧水」より）

門松の男結びで飾りけり

平成二十四年七月（創刊号）

すすき野や蔵王連峰夕映えす

令和元年五月（十号）

連れ添うて五十四年や木の芽晴

令和二年八月（十一号）

二、故人は、自作自詠（俳句）研修会の立ち上がりから

ご参加頂き、熱心に句作りに励まれた。

この度突然の訃報に接し慟哭の至りである。

家族を愛し、故郷に思いを馳する句が多く、男気充分の人であった。

今は、ただご冥福を祈るばかりである。

（令和三年一月七日逝去。享年八十五歳）

三、追悼の句

吟声に星みなうるみ寒夜かな

自作自詠俳句研修会 実施事項

※ 例会 毎月第二火曜日 午後二時より（原則として）

① 名句鑑賞・解説（当番制）

② 自作自詠

・ 自作俳句二句の紹介と一句自詠（独吟）

・ 俳友の感想、先生の句評

③ 自選一句（新聞俳壇等）、紹介と選者範吟・合吟

④ 翌月の兼題の選定

※ 行事 吟行会（原則年二回）、懇親会、その他

※ 句誌「湧水」年一回発行

千代田岳精会自作自詠俳句研修会 役員

参与

運営委員

鈴木陵人	顧問	前田道人
磯田鳥城	リーダー	橋本千舟
岩崎泰俊	サブリーダー	細川をさむ
徳本じゅんじ	運営担当	神田つねこ、座間宗萌、伊藤しょう
	伴奏担当	神田つねこ、座間宗萌、近藤まき
	企画担当	鶉飼てるお、塩月凌司、伊藤しょう
	編集担当	細川をさむ、近藤まき
		神田つねこ、座間宗萌、本田はじめ